

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育学部設置認可申請において示した教育学部の理念・目的の学生及び教職員への周知を徹底する。	→「学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンス、就職セミナーなどにおける学部の理念・目的の周知徹底の頻度」	B	B	B	B	B
2. 学部の理念・目的について、その周知方法の適切性を評価分析する。	→「学部長室委員会及び学部広報委員を中心にして、周知方法の改善策の検討頻度と進捗状況」	C	C	C	C	C
3. 学部完成年度以降の将来ビジョン策定において、学部の理念・目的の再検討を行い、新たな設定を行う。	→「学部の将来ビジョン委員会における2013年度以降の学部再編計画および理念・目的の検討状況」	A	A	A	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年度の学部創設以来、学部の理念・目的については、入学式・チャペル・各種実習ガイダンス・就職セミナー等で学生に周知するよう、学部長、宗教主事、実習委員長、就職委員長等が中心となって口頭で伝えてきた。また、学部ホームページ、パンフレット、リーフレット、履修心得、実習の手引き、就職指導の冊子等に文字化して伝えている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 毎年度、目標に向かって努力してきたが、学生の心にどれほど届いているかの検証を行ってはいない。また、職員に対しては、学生指導を通して間接的に伝わっていると思われるが、意識的に学部の理念・目的の周知徹底を図ったことはない。学生への周知徹底度の検証と、本件に関する職員とのコミュニケーションが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入学式等のイベント時だけでなく、各教員が日常的に授業等様々な機会を通して学部の理念・目的を学生に伝えるようにすることを教員間で申し合わせると共に、周知徹底度の検証方法を検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部の理念・目的の周知方法の改善策については、広報委員会を中心に、学部事務室と協力して、学部案内のリーフレットの作成やパンフレット、HPの記載内容の見直し等を行ってきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 毎年、パンフレットやHPの内容が刷新され、効果的な広報が行われていると思われるが、学部理念・目的の周知方法の適切性を検証するパラメーターの設定が課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 広報委員会を中心に、周知方法の適切性を検証するための指標や方法を検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 完成年度以降の将来ビジョン策定時に、将来ビジョン委員会において、学部の理念・目的の再検討と教育課程の見直しをおこなった。その際、学部の理念・目的は、基本的に変更しなかった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 完成年度以降も、学部創設時の理念・目的を変更しないこととし、教職員がこれを共有して教育・研究活動にあたっている。そのため、教育学部の特徴が明確になり、学生や受験生にも理解しやすいものとなっている。教育学部の基本理念は大切にしながら、今後は、社会の大学に対する要請や、教育界の変化を見据えた理念・目的の再検討を行うことが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 将来構想委員会、学部長室会等で、社会のグローバル化に対応した大学の課題や我が国の教育界の変化等について研究、検討を重ね、教育学部の理念・目的の再検討を行う考えである。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆